



【くろだけじゅうたく（おもや・くら・もん・へい）】

黒田家住宅（母屋・蔵・門・塀）

門



地区の歴史を今に伝える

黒田家住宅は、母屋、住宅蔵、表門、石塀などからなり、大正末の地域の歴史建築事情などを知る上で貴重な建物といえる。敷地周辺は、市電山鼻線が開通するのを契機に市街化された地区であり、建物は築後90年以上を経ているが、創建時の姿を非常に良く維持しており、使用材や内部空間の質も高い。

モダン住宅

東側電車通り沿いにある表門の潜戸（の）を抜けると、南側に庭のある母屋へ至り、木造平屋一部2階建てのモダン住宅の趣がある。母屋は大部分がモルタル塗りのおおかくべの大壁構造で、表玄関の付く東棟、2階付き主棟および平家の西棟で構成されている。

小屋組は、西・東棟はキングポスト・トラス、主棟はクイーンポスト・トラスで、主に松材が使用されている。

自家製コンクリート・ブロック造の住宅蔵

住宅蔵で特徴的なのは、軟石（やう）様の自家製のコンクリート・ブロックを使用していることである。その理由は伝わっていないが、建築着工が大正12（1923）年9月の関東大震災後であったことから、石よりも一体的に創り上げることのできるコンクリート・ブロックを採用したとも考えられる。一方で札幌軟石への親しみや意匠面でのこだわりから、コンクリート・ブロックでありながら見た目は軟石様にしたと推察できる。

また、黒田家住宅の表門は向きや造りが特徴的な一間腕木門（いつげんうで きもん）、石塀は札幌軟石で構成されているなど、様々なこだわりがみられる。

概要

○母屋…木造2階建	○建築面積
○蔵…コンクリート・ブロック造2階建	母屋…238.61㎡
	蔵…33.05㎡

塀



蔵



- 建築年代：大正13（1924）年
- 登録年月日：平成22（2010）年9月10日
- 所在地：札幌市中央区南13条西7丁目1-1
- 観覧形態：敷地外からのみ観覧可